

2021年度 大学入学共通テスト 数学ⅠA(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
やや難化。 問題そのものの難易度というより、問題量および文章量に対する時間が少なく完答がしづらい。	増加。 文章量が増えたため、センター試験と比較で7～8ページ近く増加。	会話形式で進めていくものが目立った。さらに、選択肢から選ぶものが増加している。設問を参考にし、解答させる新傾向の問題も見られた。
<p>総評</p> <p>試験時間が60分から70分に増加したとはいえ、文章量および問題量も増加したことから、厳しい試験と感じた受験生が多く存在したであろう。また、選択問題などでもしっかりと吟味が必要なものもあるため、受験生にとっては時間制約の厳しい試験になったと想定されることからやや難化と判断した。それまでの設問を参考にし、別の設定の問題を誘導なしで解答させる問題などが新傾向の出題であった。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]数と式 [2]図形と計量	30点	[1]基本的な問題。最後の有理数の条件がつかずきやすかったように思われる。 [2]180°-θの三角比の利用や辺・角度の大小と面積の大小の関係など少々読み取りづらい設定もあった。
第2問	[1]2次関数 [2]データの分析	30点	[1]陸上競技にていかに早く走るかを2次関数で考えさせる問題であった。聞きなれない言葉に対してきちんと設定を落とし込めたかが正答のポイントとなったであろう。 [2]基本的に正誤判定で、分散などの計算はなし。ただ、図が多く判定に手間取る問題であった。
第3問	確率	20点	試行調査でも出題されたものと似ているが、聞かれていることは難しくないので丁寧に解き進めていきたい。
第4問	整数	20点	円周上を動く点と1次不定方程式の内容を絡めた問題。調べる力があるかが明暗を分ける内容であった。

第5問	平面幾何	20点	角の二等分線や内心、方べきの定理などを利用して長さを求めるが、書かなければならない円が多く状況把握に手こずる問題であった。
-----	------	-----	---

高2生へのワンポイントアドバイス

全体的に量が多いこと、そして文章量も多いことから付け焼刃の学習では対応できない。普段から基本問題を中心に定理公式類の確認およびそれらの証明までしっかりマスターしておきたい。また、基礎学習がある程度仕上がったら文章量になれるためにも、教科書や予想問題などを通してしっかり練習を積んでおきたい。

進路企画